

わくわく なつまつり

7月19日 長田フェスティバル

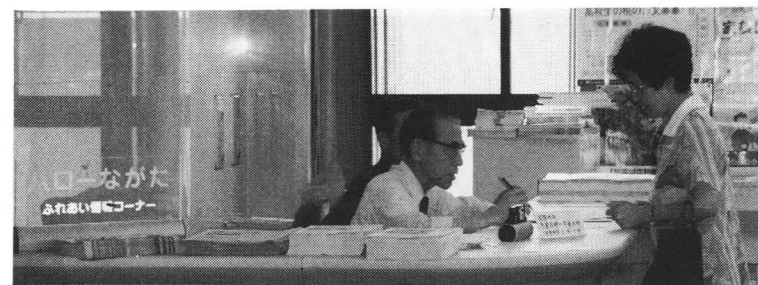


7月1日から、区役所1階ロビーに「ハローながた ふれあい情報コーナー」がオープンしました。

長田区は、震災の被害が大きく、またお年寄りや外国人の方も多いことから、復興関連情報や配布資料を求めて来庁される区民が多いところです。

そこで、来庁目的に添った情報の提供や、行政の担当窓口の紹介、軽易な説明等により、来庁者に対し、やさしさとぬくもりのある、身近な区役所を目指しています。

このコーナーには、約240種類の各種パンフレット、掲示板のほかに、1枚20円の有料コピーサービスも行い、市民の利便を図っています。今後は市政や復興関連情報だけでなく、長田区内の地域の情報も提供していく予定です。

人・街・ながた
震災資料室だより

人・街・ながた
震災資料室 発行

〒653 神戸市長田区北町3-4-13
電話(078)579-2311

発行人/寿 広文
編集人/武川・福谷

第7号

ハローながた ふれあい情報コーナーオープンについて

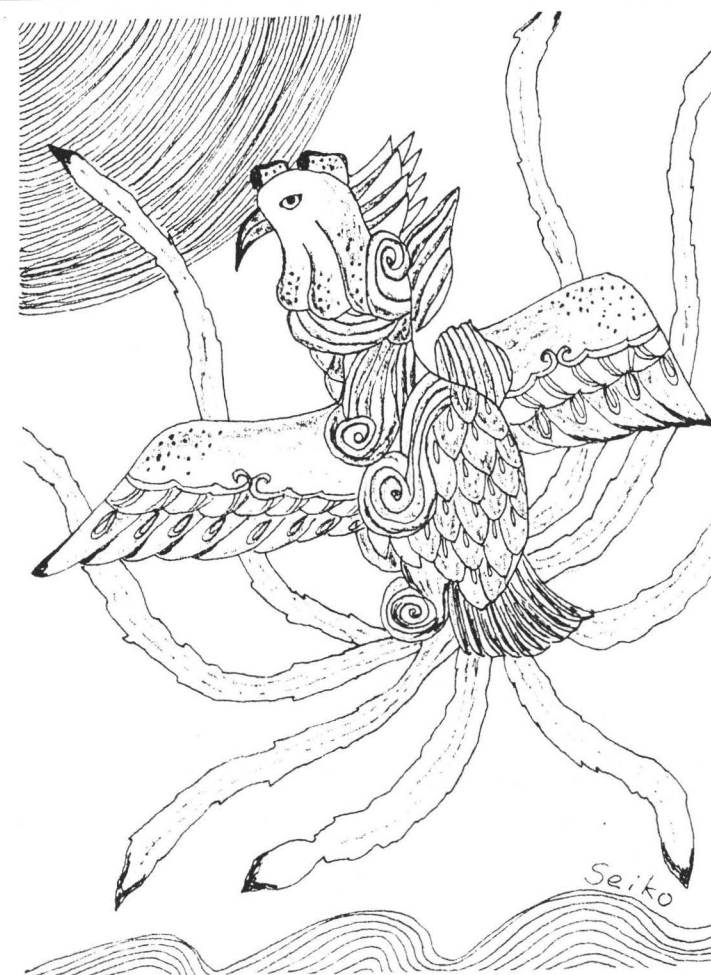
① ハローながた ふれあい情報コーナーオープンについて
② 記録集紹介他
③ 長田区人口の移り変わり

阪神・淡路大震災以後の
長田区の人口・世帯数の動き

平成9年6月1日現在長田区の人口は 89,623人・世帯数は36,119世帯で、神戸市総人口(1,423,830人)の6.3%・総世帯数(548,940世帯)の6.6%を占め、神戸市の中で一番人口の少ない区になっています。震災前の平成7年1月の人口が約13万人・5万3千世帯で、6番目の区であったのに比べると、人口で4万人・世帯数で1万7千世帯も減少していることになります。これは、震災により約3万棟の建物が全壊・全焼等の被害を受けたために長田区外へ住居を移したによるものと思われます。

国勢調査人口の結果を見ても、長田区の人口は、昭和45年は約21万人・昭和55年は約16万4千人・平成2年は13万7千人と年々人口が減っていく傾向にありましたが、平成7年には9万7千人と震災の影響で大幅に減少しています。

今後、住宅等の建築が進み、「ながたの街」が復興するに伴い早い時期に人口が増加する時がくることと思います。(津村)



長田区の人口・世帯

月別	平成7年		人口増減	
	世帯数	人口	対前月	対前年同月減
1月	53,247	129,978	163	2,106
2月	52,797	128,641	1,337	3,296
3月	51,884	126,405	2,236	5,320
4月	51,006	123,786	2,619	7,497
5月	50,444	122,180	1,606	8,969
6月	49,815	120,595	1,585	10,401
7月	49,372	119,523	1,072	11,424
8月	49,051	118,659	864	12,187
9月	48,718	117,828	831	12,882
10月	37,940	96,807	国勢調査	
11月	37,723	96,216	591	34,127
12月	37,531	95,637	579	34,504



月別	平成8年		人口増減	
	世帯数	人口	対前月減	対前年同月減
1月	37,337	95,108	529	34,870
2月	37,228	94,701	407	33,940
3月	37,207	94,174	527	32,231
4月	36,828	93,413	761	30,373
5月	36,766	93,053	360	29,127
6月	36,646	92,682	371	27,923
7月	36,542	92,385	297	27,171
8月	36,433	92,026	359	26,705
9月	36,429	91,802	224	26,121
10月	36,426	91,675	127	5,132
11月	36,409	91,553	122	4,663
12月	36,335	91,259	294	4,378

月	平成9年		人口増減	
	世帯数	人口	対前月	対前年同月減
1月	36,323	91,056	203	4,052
2月	36,254	90,736	320	3,965
3月	36,230	90,543	193	3,631
4月	36,191	90,166	377	3,247
5月	36,172	89,830	336	3,223
6月	36,119	89,623	207	3,059



あの震災の真っ只中、混乱の中、親を家族を保育さんたちを、ひたすらに信頼しきった子供たちの瞳。生きることに精一杯で疲れ切った周囲の心をほっとさせる無心な笑顔。幼い子供がいるからこそ存在する人と人との絆があらわれている。子供たちはあまりに幼くて、震災時の記憶はうすれてしまいかもしれないけれども、周囲の人達の愛情や絆、懸命な姿はきつとほだで感じ、無垢な心の中にしみこんでいるだろう。復興には長い時がかかるだろう。けれど「人はめぐりあって 生き 生かされている」このめぐりあいとそのなかで得たものを大切に、手を取り合っていていけば、辛く苦しいだけの復興にはならないのではないだろうか。

「めぐりあって」を大事に生き生かされ人生を歩んで欲しいことを願う 子供達に語り伝えていきたい」

めぐりあって

語りつたえよう

愛し子へ――

神戸市立 細田保育所

1995・7月発行

震災後いただいた おくがみです。

50

65300

兵庫県神戸市

長田区役所

避難所 皆さんへ

ご家族のみなさん、お元気でしょう
か。ゆたしたちは、元々です。そちら
では、じしんがひどくて家がこわれ
たり、なくなったり、人々がけがした人な
どにたいへんでした。体いなか
なで、大いに見え、かたがど、い
つで、大いに見え、かたがど、い
つで、大いに見え、かたがど、い

50924

震災資料室

「記録集」の紹介

ホームヘルパー奮戦記

神戸市長田福祉事務所
阪神淡路大震災活動記録

1995・7月発行

「きめ細かい在宅訪問、支援活動を行うかたわら、避難所で不自由な生活を余儀なくされている住民の生活支援活動・・・高齢者や障害者、病弱者をはじめ避難者に対しての親身の相談や献身的な活動」細やかな引き継ぎ日誌に書ききれないヘルパー達の気持ちがあらわれているようだ。しかし「単に業務記録にとどまらず、時の経過と共に惹起す問題を明らかにすると共に・・・」と記されているように、社会的弱者といわれている人達の哀しみや苦しみは現在もそのまま続いている事もまたあらためて思い知らされる。

けれどもホームヘルパー・被災者・他力を合わせて必ず道はひらける そんな希望もよみとれる。

「歩みは遅々としていますが長田は下町風情の強い町で人情も厚く、きつと力を合せて立ち上がるものと信じています。」

まけるなしんちゃん

著者 東海林 のり子 一六六頁

『大地震の前には人間は小さなそんざいでした。けれども、だからこそ人びとは助けあい励ましあい 子供たちは力づくよく大人たちをささえました。私は、人びとのなかに、すばらしい愛の力をみました。この人間のちからをわすれてはいけません。それが、この本を書いた理由です。（はじめより）』

「現場から東海林がおつたえしました。でおなじみの東海林のり子さんによって書かれた本。震災発生から五時間間もの間、一人で暗いガレキの下で頑張った子、大社中学にできた「負けてたまるか村」で村長になった0歳の赤ちゃんとお兄ちゃんとお姉ちゃんら、小さな体に大きな傷をつけても、大人に生きる勇気を与えてくれた子供たちのこと等、大きな被害のなかで子供たちはどう行動したか、学校はどうなっただかについて書かれています。」



よみがえれ長田！ 第2回震災資料室展

とき 97年 9月 1日（月） 午後1時

97年 9月 5日（金） 正午

ところ 長田区役所 7階ギャラリー他